

平成29年 2月の大阪森林便り



夢の素材、普及の息吹 植物由来 セルロースナノファイバー

「ポスト炭素繊維」 課題は製造コスト

- ・植物由来の軽くて強い新素材、セルロースナノファイバー（CNF）の開発競争が加速。
- ・CNFは木材などの植物の繊維を機械や化学薬品でナノ（ナノは10億分の1）メートル単位まで細かくほぐした素材。重さは鉄の5分の1、強度は3～5倍。
- ・透明性も大きな特長。熱での変形も少なく、工業用素材としての可能性も。
- ・消臭効果を持つイオンを吸着するという特長。粘り気を調整する特長も。
- ・製造コストの現状は、1kg当たり5000～1万円。炭素繊維は一般的に3000円、鉄は1000円。

（2017年1月6日 日本経済新聞記事から抜粋）



21年ぶり輸入品を超す 国産合板 昨年の製造量

木造建築への普及策寄与

- ・国内の合板製造量が1995年以来、21年ぶりに輸入合板を超えた模様。
- ・2016年に国内で製造された合板は306万3千m³。輸入量は279万2千m³になる見込み。合板分野で国産の占める割合は52%となります。
- ・戦後に植林された人工林が木材として利用可能な伐採期を迎え原料を大量に安定して調達しやすくなっていることが背景。
- ・輸入合板は、マレーシアなど産地の環境規制の強化で原料の丸太価格が上昇。
- ・国は2025年までに国産材利用を拡大し、2015年時点で33.3%だった木材自給率を50%超にまで高めたい考え。

国産合板、上昇続く 工場火災で供給不足

- ・針葉樹合板価格は、前月比3%高。
- ・メーカー在庫は2016年11月末まで8か月連続で減少。
- ・秋田市の工場で2016年4月に火災が起き、供給余力が低下。3月にも操業を再開。

（2017年1月14日 日本経済新聞記事から抜粋引用）



1月積み対日価格 北米産丸太 横ばい

製材会社の反発に配慮

- ・北米産丸太の対日輸出価格交渉が据え置きで決着。
- ・為替の円安・ドル高傾向で仕入れコストの上がる日本勢の反発が強く、価格は2か月連続で横ばい。
- ・米国では戸建て着工件数が増加傾向で、木材需要が伸びています。
- ・現地の木材会社は値上げを求めていましたが、円安により原材料費が上昇している日本の製材会社に配慮。

(2017年1月20日 日本経済新聞記事から抜粋引用)



南洋材丸太価格 12月も据え置き 日本向け、3か月連続

- ・南洋材丸太の対日価格交渉が3か月連続の据え置きで決着。
- ・2016年1～11月のマレーシア産丸太の輸入量は、前年同期に比べ約11%減少。

(2017年1月28日 日本経済新聞記事から抜粋引用)



今月の木の話

無垢材フローリング編

- ・木は基本的に水気を嫌います。
- ・フローリングも日常のお手入れは掃除機をかけ、から拭きを行う程度で十分。
- ・濡れた雑巾を頻繁にかけると表面にひび割れができたりします。
- ・科学雑巾は1～2週間に1回程度としてください。使いすぎるとかえって汚れが付着してしまいます。
- ・できれば月1回くらいワックスがけをするのが理想ですが、半年に1回、1年に1回でも光沢が違ってきます。
- ・ワックスの乾燥をよくするために、必ず天気の良い日を選んで作業するのがコツです。

※ワックスのかけ方

- ①住宅用洗剤を薄めた液で汚れを拭き取り、窓を開けて十分乾燥させます。
- ②床面のデコボコやささくれはサンドペーパーで軽くならしておきます。
- ③ワックスを布かモップに浸し、部屋の奥から出口に向かって塗ると効果的。床に直接まくタイプのワックスもあります。

(社団法人福岡県木材組合連合会「木のある生活」より抜粋)